

学校だより あしたか

富士市立吉永第二小学校 令和7年2月

臨時号②



令和6年度「後期学校アンケート」へのご協力、ありがとうございました

保護者の皆様にご協力いただいた学校評価アンケートの結果をご報告します。このアンケートで示された子どもたちと保護者の皆様の思いを参考に、より良い教育活動の推進に向けて、本校職員一同力を合わせて取り組んでいきたいと思っております。

A:そう思う B:だいたいそう思う C:あまりそう思わない D:まったくそう思わない E:わからない

(上段) 児童アンケート (下段) 保護者アンケート (割合はA+Bの割合)

△増加 ▼減少

	質 問 項 目		前期割合 (%)	後期割合 (%)	
1 GD	みんなで考えたり、活動したりすることは楽しい。	児童	100	98.4	▼
	お子さんは、学校生活を楽しんでいる。	保護者	100	100	—
2 GD	自分にはよいところがあると思う。	児童	84.9	86.9	△
	お子さんは、「自分にはよいところがある」と分かっている。	保護者	95.1	96.6	△
3	「自分らしく ともに かがやく」に向けて、自分のことも友達のこと大切にしながらんばっている。	児童	98.6	93.5	▼
	お子さんは、北中校区の小中一貫教育目標「自分らしく ともに かがやく」に向けて、自分や友達を大切にしながら成長していると感じる。	保護者	98.4	98.3	▼
4	「挑戦しよう 失敗は宝もの」に向けて、何事にも挑戦している。	児童	94.5	90.3	▼
	お子さんは、吉二小の重点目標「挑戦しよう 失敗は宝もの」に向けて、自分らしく取り組んでいる。	保護者	96.7	96.6	▼
5	自分たちの地域が好き。	児童	98.6	91.8	▼
	お子さんは、北中校区の地域のよさが分かっている。	保護者	62.3	86.4	△
6	地域の人、学校のためのボランティア活動によって、学校生活が良くなっている。	児童	100	96.8	▼
	地域の人(クラブ講師ふれあい協力員、PTAなど)が、学校のボランティア活動をしていることで、子どもたちの学びや学校生活がよりよくなっている。	保護者	98.4	100	△
7	学校であったことや学んだことを家の人に話している。	児童	97.3	91.9	▼
	学校は、お便りやマチコミなどで子どもたちの様子を伝えている。	保護者	98.4	96.6	▼
8 GD	授業に楽しく参加している。	児童	97.3	93.5	▼
	お子さんは、授業に楽しく参加している。	保護者	96.7	100	△
9 GD	授業でやっている内容が分かる。	児童	91.8	87.1	▼
	お子さんは、学習内容を分かっている。	保護者	96.7	91.5	▼
10	使ったものを片付けたり、進んでそうじをしたりしている。	児童	95.9	91.9	▼
	お子さんは、使ったものを片付けたり、使った場所をきれいにしたりしている。	保護者	57.4	72.9	△

GDは、グランドデザインで、数値目標として掲げている項目です。

11 GD	学校や家で、よく本を読んでいる。	児童	73.6	67.7	▼
	お子さんは、読書に親しんでいる。	保護者	62.3	61.0	▼
12	家庭学習を忘れずにやっている。	児童	前期未実施	87.1	—
	お子さんは、家庭学習（宿題など）が習慣化している。	保護者	前期未実施	86.0	—
13 GD	外で元気に遊んだり、体を動かしたりすることは楽しい。	児童	95.9	96.8	△
	お子さんは、外遊びや体力づくりを楽しんでいる。	保護者	80.3	77.6	▼
14	友だちの考えを、分かろうとして温かい気持ちで聴いている。	児童	100	98.4	▼
	お子さんは、家族をはじめ、人の話を分かろうとして聴いている。	保護者	82.0	84.7	△
15	自分の考えをノートに書いたり、発表したりできる。	児童	86.3	85.2	▼
	お子さんは、自分の考えや気持ちを、分かりやすく書いたり伝えたりできる。	保護者	82.0	81.4	▼
16	みんなのためになる仕事を、進んでしている。	児童	98.6	91.9	▼
	お子さんは、みんなのためになる仕事を進んでしている。	保護者	82.0	86.2	△
17	時間をしっかり守っている。	児童	90.3	96.8	△
	お子さんは、時間を意識して生活している。	保護者	70.5	71.2	△
18	わずれものをしないように、しっかりじゅんびしている。	児童	89.0	82.3	▼
	お子さんは、忘れ物をしないように、学校の準備を計画的に行っている。	保護者	68.9	67.8	▼
19 GD	自分からあいさつができる。	児童	95.9	98.4	△
	お子さんは、進んであいさつができています。	保護者	93.4	88.1	▼
20 GD	パソコンやタブレットの使い方が分かり、授業で役立てることができる。	児童	94.5	96.8	△
	お子さんは、パソコンやタブレットなどのICT機器を使うことができます。	保護者	88.5	96.8	△
21	ゲームやテレビ、スマートフォン、タブレットの使い方と使用時間について、約束・ルール、マナーを守っている。	児童	90.4	91.9	△
	お子さんは、ゲームやテレビ、スマートフォン、タブレットの使い方と使用時間について、家庭の約束・ルール、マナーを守っている。	保護者	68.9	67.8	▼
22	「早ね・早起き・朝ご飯」をしている。	児童	86.3	85.5	▼
	家庭で「早寝・早起き・朝ご飯」を意識した生活を送っている。	保護者	86.9	78.0	▼
23 GD	危険を感じたとき、自分の命を守るために、考えて行動することができる。	児童	98.6	91.9	▼
	お子さんは、緊急時に自分の命を守るために考えて行動することができる。	保護者	81.9	86.4	△
24	困ったときに、相談できる人がいる。	児童	91.7	90.3	▼
	お子さんは、悩みや困ったことを相談できる人がいる。（家族・先生・友達など）	保護者	100	98.4	▼
25 GD	安心して登校することができる。	児童	98.6	93.5	▼
	学校は、お子さんを安心して任せることができる場所になっている。	保護者	100	98.3	▼

【保護者の皆様から】

・高学年になってくるとお友達同士でのちょっとしたトラブルが起こりやすくなってるので見守って頂きたいと思
います。→全職員でチームとして対応していきます。

・3・4年の女子トイレの洋式が一箇所壊れていて、混雑することがあるため、修理してほしい。

→現在、故障は解消しました。

★貴重なご意見をありがとうございました。

学校は、児童たちと保護者、地域、職員の願いによって、より良いものへと変わっていく場所です。お困りのこ
とやご意見がありましたら、ぜひご一報ください。



【 成果と課題 】

- ◇「1 みんなで考えたり、活動したりすることは楽しい」は、児童・保護者ともに高い数値ですが、児童の数
値が1.6%下がりました。後期は前期よりも成長し、友達とのつながりが強くなったり、学習が難しくなっ
たりすることから、生活環境や人間関係、学習に関して悩んだり、困ったりする児童もいることが考えられま
す。児童1人1人にしっかり目を向け、引き続き、誰1人取り残さないよう、チームとして支援していきま
す。児童や保護者の皆様から見ても「学校が楽しく、価値のある場である」と感じられる学校にしてい
きます。
- ◇吉原北中校区小中一貫教育目標【3 「自分らしく ともに かがやく」に向けて、自分のことも友達のこと
も大切にしながら頑張っている。】吉永二小重点目標【4「挑戦しよう 失敗は宝もの」に向けて、何事
にも挑戦している。】については、児童・保護者ともに割合が減少しており、特に、児童の数値が大きく減少
しています。普通の学校生活の中で児童の頑張りや成長が多く見られることから、前期に比べて児童が成長した
ことにより、自分たちの生活と目標を冷静に比べられるようになったことも考えられます。そのため、自分に
厳しくなりすぎないように、成長している点を具体的に言葉にして伝え、安心して活動できるよう励ましてい
きます。
- ◇「8 授業に楽しく参加している。」「9 授業でやっている内容が分かる。」の数値がともに4%ほど減少
しています。後期の学校での学習は、前期に比べて難しい内容が増えてきます。授業内容が分からないと感じ
る児童は学習を楽しみと感じられなくなることも考えられます。何が分かればよいのか教師と児童がねらいを
共有し、授業づくりを見直したり、個に寄り添った支援の方法を工夫したりすることで、学習を楽しむことが
できるようにしていきたいです。
- ◇「10 使ったものを片付けたり、進んで掃除をしたりしている。」は、児童の評価が4%減少したものの、
保護者の評価が15%以上増加しています。大人の目から見て数値の大きな増加が見られ、児童の自己評価が下
がっていることから、評価される行動ができている反面、自分への評価の厳しさがあるとも受け取れます。自
分への評価の厳しさは良さでもありますが、それが積み重なると自己肯定感の低下を招くこととなります。学
校でも家庭でも、大人が児童の行動を励まし、価値付けをしてあげることで、児童のさらなる成長を促すこと

ができると考えられます。片付けができなくて困っている子には、大人が助けてあげるのも一つの手です。

◇「11 学校や家で、よく本を読んでいる。」については、三者とも60%台でした。学校では読書の時間を設けているものの低い値ということから、どの程度読めていけば評価に値するのかが分からないという、評価の捉え方のずれが生じていることも考えられます。学校では、「量」「質」「頻度」など、「読書ができています」と思える基準を設ける必要があるとも考えます。ご家庭では、児童が読書している姿を見かけたらその姿をほめ、児童の中に「自分は読書ができています。」という自信を育てることも大切です。そうすることで、実際の読書量も増えていくことが考えられます。

◇「15 自分の考えをノートに書いたり、発表したりできる。」については、具体的な書き方や話し方を示す指導や支援をしながら、挑戦できたことをほめたり、励ましたりしていきます。

◇「16 みんなのためになる仕事を、進んでしている。」については、「～してくれてありがとう、うれしいよ」という言葉をどんどん掛けていくことで、みんなのために仕事をするのは良いことであると、価値付けていきたいと思います。

◇「19 自分からあいさつができる。」は児童の自己評価に増加が見られました。現在、吉二チャレンジ委員会の児童が、朝の挨拶運動をしたり、良い挨拶ができた児童を昼の放送で紹介したりしています。これらの継続的な活動が児童の中に「自分たちは挨拶ができています。」という自信が育ってきていることがうかがえます。

◇「21 ゲームやテレビ、スマートフォン、タブレットの使い方と使用時間について、約束・ルール、マナーを守っている。」は、児童の数値が増加しました。学校でも継続して機器の使用について声掛けをしているので、児童も意識できてきていると考えられます。しかし、保護者の数値が減少したことから、家庭での使用について課題のある児童もいることが考えられます。家庭での使用について、今後も継続して指導していきたいと思いますが、ご家庭でも継続して見守りをお願いします。

◇「24 困ったときに相談できる人がいる。」「25 安心して登校することができる。」は、児童、保護者ともに数値が減少しました。

学校にはスクールカウンセラーが配置され、児童が自由に相談することができます。スクールカウンセラーだけでなく担任以外の教員も、いつでも相談にのる体制が整っています。児童の相談ケースに応じて、男性教諭や女性教諭、養護教諭や生徒指導担当など、いろいろな教員や、スクールソーシャルワーカー等が対応しています。しかし、児童の成長に伴い、個々が抱える悩みや問題が多様化してきています。学校ではこれらにも対応し、安心して相談できる環境を準備していきます。児童だけではなく、保護者の皆様におかれましても、悩みや相談事がありましたら早急に学校にご相談ください。

ご協力をありがとうございました。子どもたちにとってより良い学校にしていくために、本校職員一同、一層力を入れて取り組んでいきたいと思っております。今後とも、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。